

教員の総合業績(基礎資料)調査 氏名 (ピトヨ ハルトノ)

1 研究業績

1) 著書・論文・学会発表・作品など (平成 17 年 4 月から平成 19 年 3 月)

例: (欧文の場合は、原文 **alphabet** で記入してください)

全著者あるいは作者名 (自己にアンダーライン、単著の場合はアンダーライン不要)

& 著書、学術論文又は作品の名称

\$ 発行所 (総頁数)、発表雑誌又は発表学会 (号・巻・pp・年月)、展覧会 (場所・期間) などの名称

さらに、特別講演・シンポジウム (招待講演)・一般講演など (地方支部会・全国大会・国際会議) の別

註: 学会・展覧会など、専門分野以外の人に分りにくい場合は、できるだけその社会的位置づけ、歴史、規模などの簡潔な説明を付してください

論文

1. P. Hartono, and S. Hashimoto, Learning from Imperfect Data, Applied Soft Computing Journal Vol.7, No. 1, pp. 353-363 (2007).
2. P. Hartono, and S. Hashimoto: Nonlinear Classification using Ensemble of Linear Perceptrons, Neural Information Processing-Letters and Reviews, Vol. 10, No.2, pp.35-41 (2006).
3. 小堀 訓成、鈴木健嗣、ピトヨ ハルトノ、橋本 周司、尤度情報に基づく温度分布を用いた強化学習法、人工知能学会論文誌 Vol. 20, No. 4D pp. 297-305 (2005).

国際会議

1. P. Hartono, S. Hashimoto, Analysis on the Performance of Ensemble of Perceptron, Proc. Int. Joint Conf. on Neural Networks (IJCNN 2006), pp. 10627-10632 (2006).
2. P. Hartono, S. Hashimoto, Ensemble as a Piecewise Linear Classifier, Proc. Int. Conf. on Hybrid Intelligent Systems, CD Proceedings, (2006).
3. P. Hartono, S. Hashimoto, Learning with Ensemble of Linear Perceptron, Proc. ICANN 2005, LNCS 3697, Springer-Verlag, pp. 115-120 (2005).

研究報告

1. ピトヨ ハルトノ、橋本 周司、非線形問題に対応可能な線形パーセプトロンの集団モデル、情報処理学会研究報告 Vol. 2005, No. 126, pp. 41-44 (2005).

解説

1. ハルトノ ピトヨ、川嶋 稔夫、ギガピクセルフォトプロジェクト、画像ラボ、Vol. 18, No.1., pp. 30-33 (2007).

2) 学会活動 (役員・会員)、学会の組織運営、学会誌の編集委員など (平成 17 年度に限る)

例:

#学会などの名称

&編集委員長又は委員などの別

\$ 任務期間 (年月)

註: 専門分野によっては適宜変更 (例えば、学会を展覧会などと記す)・追加説明を付してください できれば展覧会・学会などについても社会的位置付け、歴史、規模などの簡潔な説明を添えてください

1. 早稲田大学ヒューマノイド研究所、客員研究員
2. 早稲田大学ワボットハウス研究所、客員研究員
3. IEEE Int. Joint Conf. on Neural Networks (IJCNN 2007), reviewer
4. IASTED Computational Intelligence (CI 2007), Int. Program Committee Member
5. IASTED Computational Intelligence (CI 2005), Int. Program Committee Member
6. 1st Japan-Slovak Seminar on Intelligent System, Int. Program Committee Member

3) 研究費獲得状況 (未来大学外からの財源) (科学研究費、財団助成金、委任経理金など
(平成 17 年 4 月から平成 19 年 3 月))

例:

#平成 12-(13)年度

&財源、たとえば科学研究費補助金

\$ 研究課題名

%代表者、分担者の別、研究課題参加者数、あるいは〇〇研究所との共同研究 (相手機関の協同研究者数など)

¥研究経費 (例: 平成 12 年度; 800 千円、平成 13 年度; 500 千円)

平成 18 年

1. 平和中島財団, 外国人研究者招聘助成 (Dr. Jimmy Petterson, Chalmers University, Sweden), 研究課題: 日常環境下で動作可能なロボットの行動戦略獲得に関する研究、研究費: 2000 千円
2. ノーステック財団「若手研究補助金」、研究課題: 入出力関係の解釈が可能なニューラルネットワーク集団の構築と応用」、代表者、研究費: 400 千円

平成 17 年度

1. 早稲田大学ヒューマノイド研究所、国際海外参加旅費、400 千円

- 4) その他（特許、内地研究（学内共同研究は除外）および在外研究歴と成果など特記すべきこと。本項目は平成 12-17 年度に限定しない。）

2 教育業績

- 1) 教育負担の実態（複数教員で担当する科目の場合は、貴方の分担分のみ）本項目は時間割に含まれた教科（補講・補習など教室で行なったものは含む）を調査の対象としております。従って、〇〇研究会、〇〇同好会など、各教員室他で行なったものは、対象外とします。試験やレポートなどの採点時間も除外します。（平成 17 年 4 月から平成 19 年 3 月）

例：

科目名（講義・演習・実習・補講の別）、単位数・必修/選択の別、担当教員数（単独の場合は不要）

& 実施期間（平成 12 年度前期、あるいは平成 13 年 10-11 月）、実施コマ数（休講しても補講で補えば算定する）、補講をしなかった休講回数（例：実施 13 コマ、休講 2 コマ）

\$ 実働時間数（全て、実時間合計(推定)値をお願いします）、演習などは一コマ 1.5 時間を超えていると思われるので、そのような場合は、たとえば一コマ 2.2 時間などと算定してください（例：実働 22.5 時間）

% 受講登録学生数（例：45 名）、平均的出席者数（例：38 名；初めは 40 名、終りは 25 名など）、単位認定（合格）者数

註：本項目はできるだけ正確にお願いしたいですが、概数でも結構です 記述がない場合は 0 と判断します

平成 18 年度

前期

1. 学習進化システム通論（講義）、2 単位、選択、13 コマ、休講 1 コマ、19.5 時間、登録者数:13 人、平均受講者数:8 人、合格者: 8 人。
2. 応用数学演習（演習）、2 単位、必修、14 コマ、21 時間、登録者数: 33 人、平均受講者数: 33 人、合格者: 31 人。

後期

1. 情報数学〔講義〕、2 単位、必修、14 コマ、21 時間、登録者数: 127 人、平均受講者数 : 90 人、合格者数:59 人。
2. 電子工学基礎(講義)、2 単位、選択、13 コマ 休講 1 コマ、19.5 時間、登録者数: 84 人、平均受講者数: 30 人、合格者: 17 人

平成 17 年度前期

1. 自律システム（講義）、選択、実施 14 コマ ,21 時間（受講者: 32, 登録者:61、合格者: 13)
2. システム情報科学実習、演習、必修、実施 28 コマ,21 時間（受講者:11, 登録者: 11、合格者:11)

平成 17 年度後期

- 1.人工知能 II（講義）、選択、実施 14 コマ、21 時間（受講者: 39 ,登録者:52,合格者:28)
- 2.電子工学基礎（講義）、選択、実施 14 コマ、21 時間（受講者:38、登録者:164、合格者:16)
- 3.情報アーキテクチャ入門〔講義〕、必修、14 コマ、21 時間（受講者:99 登録者:114 合格者: 57)
- 4.情報アーキテクチャ入門〔再履クラス〕（講義）12 コマ、21 時間(受講者: 60 登録者:72 合格者:34)

2) 成績評価方法（その方法を具体的に記載・学生（社会）が納得するような具体的説明。）
また、複数の教員で担当する科目の場合は、取りまとめの方法についても記述してください。

2 回または 3 回の中間試験、課題またはレポートおよび期末試験の総合評価

3) 講義方法など改善への努力（FD 関連の講演会などの聴講回数、教育内容とそれらの効果について貴方が行われた事柄・目標を具体的に記述して下さい）。

- 全ての授業に対し、授業時間外にオフィスタイムを設け、学生が気軽に質問できるようにした。
- いくつかの授業では、意図的に教科書を指定せずに、各々の学生にあった参考書を学生自身で選ぶよう指示した。これは学生の能動的な自律性を育てるために行った。

4) その他（上記以外に特記すべきことがありましたら、簡潔かつ具体的に、箇条書きなどで記述してください。特に、貴方が作られたシラバスと現在教務委員会で検討されている（コース別）講義内容・目標、あるいは JABEE などとの関連、並びに貴方が担当されている科目の位置付けなどについてご意見があれば記して下さい。また、本学は教員の専門分野が多岐にわたっているため、相互理解を目的としたコース特有の問題点や、皆さんの教育に対する抱負などを記述して戴いても結構です。）

--

3 大学の管理運営

各種委員会（委員長・委員、クラス担任、学習指導・生活指導、クラブ活動の顧問等の実績（具体的に記述してください、できれば実働延べ時間数など）、その他。（平成 17 年 4 月から平成 19 年 3 月）

平成 18 年度 -国内国際連携委員会 -施設委員会 -課外活動顧問(バドミントン部、学園祭)
平成 17 年度 -国内国際連携委員会 -CML ワーキンググループメンバー -課外活動顧問(バドミントン部、学園祭)

4 その他

資格（技術士など）、地域への貢献（地域自治体審議会、委員会等の役員、委員。地域との共同研究・技術相談。公開講座・出前授業・市民向け講演）あるいは提言・御意見など。（平成 17 年 4 月から平成 19 年 3 月）

- 函館市在住の医師と医療データ解析に関する共同研究の検討
